

## 9 復習問題

- (1) いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひ給ひける中に、いとやんごとなき  
いづれの 御の時にもかが 女御 更衣あまたさぶらひ給ひける中に いとやんごとなき  
 際にはあらぬがすぐれてときめき給ふありけり。  
際にはあらぬがすぐれてときめき給ふありけり
- (2) ゆく河の流れは絶えずして、しかもとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかた  
ゆく河の流れは絶えずして、しかもとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかた  
 は、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。  
は、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし
- (3) 祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の  
祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の  
 ことをあらはす。  
ことをあらはす
- (4) つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、  
つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、  
 そこほかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。  
そこほかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ
- (5) 月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。  
月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり

一 (1)・(2)から、動詞(四段・ラ変動詞はのぞく)・形容詞を順に抜き出し、次の表を完成させなさい。

抜き出した語	品詞名	活用の種類	基本形	文中での活用形
--------	-----	-------	-----	---------

三 (4)から、形容詞・形容動詞を順に抜き出し、次の表を完成させなさい。また、音便が用いられている単語を抜き出し、音便の種類ともとの形を答えなさい。

## 「輝く古典、ベスト・セラー」

### 【出典】

- (1) 『源氏物語』物語。一〇八年ごろ成立。作者は、紫式部。  
 (2) 『方丈記』随筆。一二三年成立。作者は、鴨長明。  
 (3) 『平家物語』軍記物語。鎌倉時代前期。作者未詳。  
 (4) 『徒然草』随筆。一三三〇年ごろに成立か。作者は、兼好法師(下野兼好)。  
 (5) 『奥の細道』紀行文。一七〇二年刊行。作者は、松尾芭蕉。

【たいせつなことは】辞書で調べてみよう。

- (1) さぶらふ・給ふ・やん(む)ごとなし・(2) うたかた・  
 (3) 無常・(4) つれづれなり・日暮らし・よしなしごと・そこほかとなし・あやし・ものぐるほし・(5) 過客

### 【ここに注目】

▶ 音便 → イ音便(書いて)・ウ音便(愚くて)  
 撥音便(飛んで)・促音便(兼ねて)

▶ 古文は難しくない。新しいものは出てこない。くりかえし学習しよう。